

令和4年度 図画工作科 授業改善推進プラン

大田区立池雪小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ (低) はさみやカッターナイフなどの道具を系統的に用い、表したいことに合わせて用具を使う技能を伸ばすことができた。
- ・ (中) 木工では実際に使うこと・遊べることを意識できる題材を設定し、見本を見せることで、児童が進んで取り組むことができた。
- ・ (高) ICT 機器を用いて制作過程を記録し、製作途中から鑑賞する機会を設定し、作品の構想に生かしながら取り組むことができた。

(2) 課題

- ・ 題材に対する姿勢や活動の追求度に個人差が見られる児童に対し、楽しく進んで主体的に取り組むために、分かりやすい活動ポイントの提示の仕方を工夫する。
- ・ 絵の具や水の混ぜる量など、用具を使う際の丁度良い加減を身に付けることが難しい児童に対し、具体的な支援の方法を工夫する。
- ・ 想像力を働かせて工夫することが難しい児童に対し、視覚的な支援の仕方を工夫する。

2 授業改善のポイント (観点別)

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
手や体全体の感覚を働かせて感触や色・形などを確かめて特徴を知るために、材料に触れる時間を取り、用具の使い方をスモールステップで指導する。	活動の中でいつでも発想を広げられるために、材料や用具に楽しく慣れる時間を設けて児童が思いついた方法をすぐに試せるようにしたり、その方法を板書等で周知したりする。	楽しく取り組むために、完成物や途中経過物を見せることで製作の過程をイメージできるようにする。また、交流でお互いの作品の良い点を認め合うことで、制作の楽しさをより味わえるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
作ったり作り変えたりしていく中で、自分なりに表し方を工夫していくために、自分の感覚や行為を通して材料の特徴を捉えさせ、用具の使い方をスモールステップで指導する。	身近にあるものや材料に触れ操作することで、自分の見方や感じ方を広げられるよう、自由な発想を認め交流させる。また、児童の発想を板書等で掲示し、いつでも振り返られるようにしていく。	完成のイメージや、題材と身近なものの共通点を提示し、進んで授業に取り組めるようにする。鑑賞の際には、互いの作品のよい点を認め合えるようにし、活動意欲を高められるようにする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
材料や用具の活用の仕方を工夫して表すために、基本的な用具の使い方	児童のアイディアを児童同士で見合い、自分以外のアイディアに触れ、発	主体的に制作に取り組めるように、題材の素材や制作方法と身近なもの

<p>を、使用する際に視覚的に確認して指導をし、中学校美術・技術へつながる基本的な技術を身に付けさせる。</p>	<p>想を広げられるようにするために、児童から出た思いを黒板等に掲示をしたり、ICT機器を用いて記録したりする。</p>	<p>の共通点を提示したり、制作途中で互いの作品を鑑賞する時間を設けたりし、活動意欲を高められるようにする。</p>
--	--	--